

令和二年六月九日

お同行各位

入梅の候、皆さまお変わりなくお過ごしでしょうか。緊急事態宣言が解除され、お墓参りに来られる檀信徒の方々、園では子ども達の姿が少しずつではありますが戻ってまいりました。

五月のお寺のお便りでご案内させて頂いた通り、五月二十一日には毘沙門天法要をライブ配信させて頂きましたが、法要を終えて配信動画を確認したところ音声が入っていませんでした。翌日改めて配信をさせて頂きましたが、何度もお聴頂きました檀信徒の皆様には貴重なお時間を取らせてしまい申し訳ありませんでした。

今回、ライブ配信で、誰もいない座敷の中で一人、カメラに向かって法話をしました。当然ながら私の話にならずいてくれる方は誰もおらず、とても不安な気持ちになり、改めて檀信徒の皆さまの存在がとても「有り難い」ことだと感じました。

感謝するとき、私たちは「ありがとう」という言葉を発します。この「ありがとう」という言葉は、諸説ありますが、『法句経(ほっききょう)』の中の「人に生まるるは難(かた)く、いま生命(いのち)あるはありがたし」という一節がそれに当たります。

当、満福寺ではお通夜の際、『登山状』という疏を読むのですが、その中に「盲亀浮木(もうきふぼく)の譬(たとえ)」があります。それは、目の見えない一匹の亀が百年に一度、浮かび上がった時に浮木の穴に、ひよいと頭を入れることが出来る確率よりも人間に生まれることは滅多にないことで、それほど喜ばねばならないことだと説いています。

日常生活を送っていると、多くのものが「当たり前」の存在になってしまいます。「会社や学校に行くこと」や「家族みんなで出かけること」。最終的には「生きること」も「当たり前」だと勘違いしていることが、非常時になって初めて、わたしたちはその「有り難さ」に気付くのだと思います。

コロナウイルスの影響で苦しいことが多くどうしようもない状況が続きますが、何気ない日常の「当たり前」な出来事にも「ありがとう」の感謝の気持ちを持つことで、貴重な素晴らしい瞬間に変わるのだと思います。ただ、「当たり前」のことに感謝する」ということは、なかなか難しいものですが、どんなささいなことに對しても感謝の心をもって、「ありがとう」と言える習慣を持つことが幸せになる一歩だと思えます。

六月のお寺の日は、法要をライブ配信させて頂きます。本来、六月のお寺の日で予定していました。『念仏のつどい』(本堂でのコンサートイベント)は檀信徒の皆様の本堂に来て頂きたいという願いから七月一九日(日)に変更し、開催を予定しております。ぜひ、七月の『念仏のつどい』には皆様、賑々しくご参詣下さい。

合掌

◎ 六月二十一日(日) お勤め 一時三十分より

ライブ配信予定 詳しくはホームページよりお願いします。

◎ 七月十九日(日) 念仏のつどい 一時三十分より

※詳細が決まり次第、ホームページでお知らせいたします。